

# 遠隔監視装置に補助金を活用

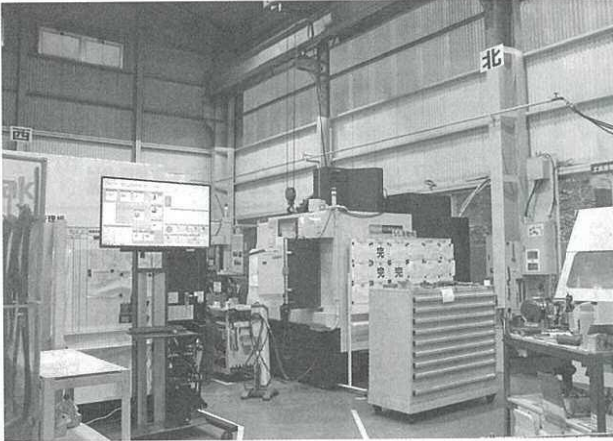
## 「スマート工場」を実現

内海機械

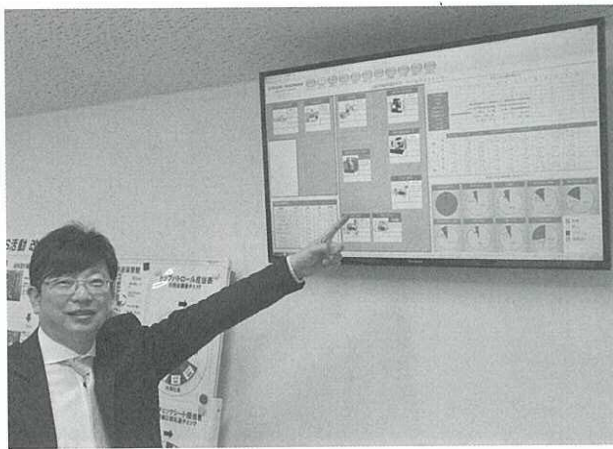
現した。これまでは1日の業務終了後に

単品・超短期納入で金属加工部品を提供する(株)内海機械(府中市鶴飼町743-1、内海和浩社長)は2月下旬、中小企業庁の補助金を活用し、リアルタイムで生産状況を確認できる遠隔監視モニターを設置。機器稼働状況をIoTで可視化する「スマート工場」を実現した。

工場内部のモニター



事務所に設置されたモニター



アナログのカウンターで計測していた切削などの生産状況を、現場のモニターやスマートフォンで確認することが可能となった。スマート工場は、同社が以前から取り組むカイゼン「5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)」「整頓の3T(定置化、定量化、定表示)」「ロス改善」の総仕上げとして計画。現場のカイゼンを進めて以降は、機械の稼働率が3割上がり、生産金額も倍増。モニターは同社1階の事務所と工場内部、3階事務所を設置。モニターと信号送信機器の設置に補助金を活用している。機械に設置しているカウンターやLANなどの設備は自社で整えた。

モニター導入以降は、人力で集計する作業が不要になったことで人員を別に回すことが可能となり、同社が誇る超短期納入の強化が期待できる。また、トラブルを早期に発見してロス改善につながったり、予定通り進んでいない状態を把握できる。ロス時間が可視化されることで、ベテランが新人を効果的に指導できるといふ。

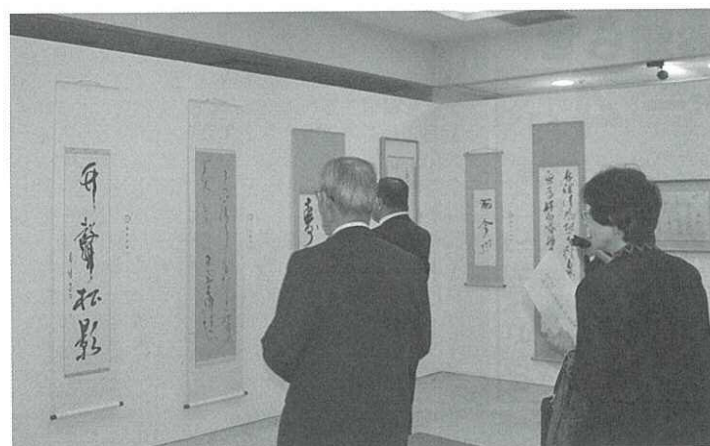
内海社長は「元からあった設備を完全に生かすため、補助金を活用した。ますます短期間に特化し、急な困りごとのあるお客様に対応したい。超短期のノウハウは、以前からホームページで公開しています。さらに、今回のシステムをオープンにし、地域の財産として同業他社とともに市場を作っていきたい」と話す。

問い合わせTel0847・45・6300  
内海機械

### 第44回会友書展を開催

芦辺書苑

芦辺書苑(高橋高郷会長)は3月14日から18日まで、福山天満屋8階で第44回芦辺会友書展を開催した。書のジャンルや用紙にとらわれない、「芦辺書苑らしさ」のある会友の作品188点を展示。開場初日に来場した関係者らは、作品に目を留め、感想を語り合っ



ていた。初日の開催に当たり高橋会長は「バラエティーに富んだ作品展になると思っています。見ていただきご指導願います」とあいさつした。芦辺書苑は1956年から活動する書道団体で、漢字・かな・硬筆などジャンルを超えたメンバーで構成し、書の鍛錬を続けている。問い合わせTel084・951・7988 芦辺書苑事務局(二葉印刷(有)内)